



金融財政

2006年(平成18年) 12月7日 (木) 第9795号 (購読料金 月額税込み5,565円)

ワーク・ライフ・バランス

お茶の水女子大学教授 篠塚英子



11月最後の週末、都心のど真ん中、畏れ多くも皇居の森の紅葉を見下ろしつつ、イタリア・ワインを堪能した。真っ赤な色彩、しかもこの場所、と物議を醸したあのイタリア文化会館の最上階である。

イタリア文化会館、在日イタリア女性協会とお茶の水女子大学の共催事業で、日伊女性国際会議「女性と社会」を開催し、シンポジウム参加者全員が館長の私邸に昼食を招待されたのである。

3日間にわたった企画は、初日と終日が映画と文学と日伊の著名人によるトークであった。塩野七生氏、桐野夏生氏などビッグネームが並ぶ。その間に挟まれて、経済、法律、社会学など両国総勢14人の学者による、日伊会議となった。

日伊の恐るべき類似点、それは少子化に歯止めが掛からないこと。この深刻な問題と女性の関係は根が深いという認識から会議は始まった。

私の担当は、「女性企業家の出会い—二人の経験の比較」というセッションのコーディネーターである。といえばかつ

こよいが、事前打ち合わせゼロという状態で当日を迎えた。

二人の女性企業家とは、色彩豊かなニッポデザインで著名なミッソーニ夫人と、日本ファッション界の大御所、森英恵氏。開演時間ぎりぎりにもまずミッソーニ夫人が、やや遅れて森氏が壇上に登場。壇上での自己紹介や打ち合わせは観客に丸見え。スピーチの用意はあるかと聞くと、二人ともそんな話は聞いていない、質問があれば答えるとのこと。

こうなれば出たとこ勝負。結果としては日伊を代表する2人の重鎮の経験はあまりに類似点多過ぎた。

すなわち、若いころから洋裁が大好き、夫がビジネスのパートナーとして共同経営に参加、自営業の家庭での経営は子供たちが小さい時には家庭と仕事のバランスに好都合であった—などなど。今でいうワーク・ライフ・バランスの好事例という結果になった。

行政支援が皆無であっても、育児と仕事の両立を達成できたのは、それが自営業という働き方であったからであろうか。この点は少子化との関係から再検討する価値がありそうである。

CONTENTS

- 解説 実行段階に必要な金融支援、
「成長資金」を供給 (渡辺美衡)
〈連載〉銀行は変わる—新しい融資手法(4)… 2
- BANCO
インフレターゲット論再考 (成相 修) …… 3
- 照一隅
中国の黒字の本当の問題 (丈夫理) …… 5
- News Eye
生・損保で明暗分かれる—9月期決算 …… 8
- インサイド 経済団体トップの条件…………… 9
- マーケットリーダー
「日本株離れ」の背景 (石室 喬) ……12
- 海外誌紙に見る日本の評判……………13
- インタビュー
〈連載〉拡大する投信市場のいま—(5)
—藤沢久美副代表に聞く……………14
- あと・らんだむ (神崎倫一) ……15
- 資料 2006年9月期銀行決算① ……19
- 北風・南風 滋賀銀行 (滋賀) ……20